

(1) 創造的イルミネーション事業〈ヨルノヨ2025〉の実施に係る景観推進地区での景観形成について（審議）

【経緯及び付議理由】

- ・景観計画により屋外広告物について制限（※1）が設けられている関内地区において、今回、山下公園と大さん橋（ふ頭ビル・国際客船ターミナル入口）で、通常の制限を超える投影期間及び投影時間の演出（※2）を行うため、ただし書きの適用（※3）について審議が行われました。

（※1）【制限の内容】景観計画（抜粋）

第5 屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限に関する事項関内地区にふさわしい秩序ある広告景観を形成するため、特に定める屋外広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為の制限は、次のとおりとする。（※3）ただし、市長が横浜市都市美対策審議会に意見を聴いた上で、魅力ある都市景観の創造に特に寄与するものと認めた場合は、この限りでない。

（※2）1 関内地区全域の制限

投影広告物は、表示することができない。ただし、催物等のために表示するもので、次のいずれかに該当し、魅力的な景観に寄与すると市長が認めた場合は、この限りでない。

ア 投影期間を原則として7日以内とし、投影開始日については、同一区域における前回の投影期間終了日の翌日から起算して、前回の投影期間の5倍の日数を空ける場合

イ 投影時間が原則として1日あたり10分以内である場合

【規定を超える演出内容】

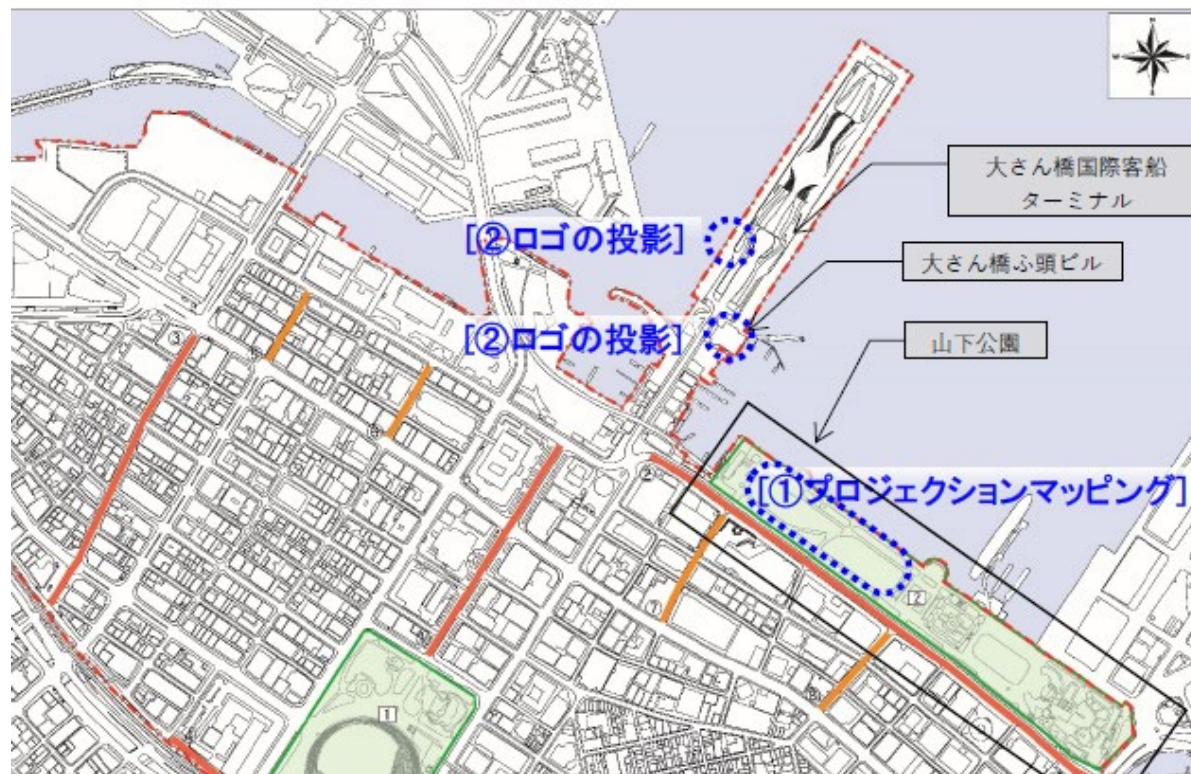
- ・ イベント期間：令和7年12月4日～30日 27日間
- ・ 投影時間（1日）：山下公園 4時間5分、大さん橋 4時間35分

【結論】

- ・ 審議事項について了承されました。

【審議の内容】

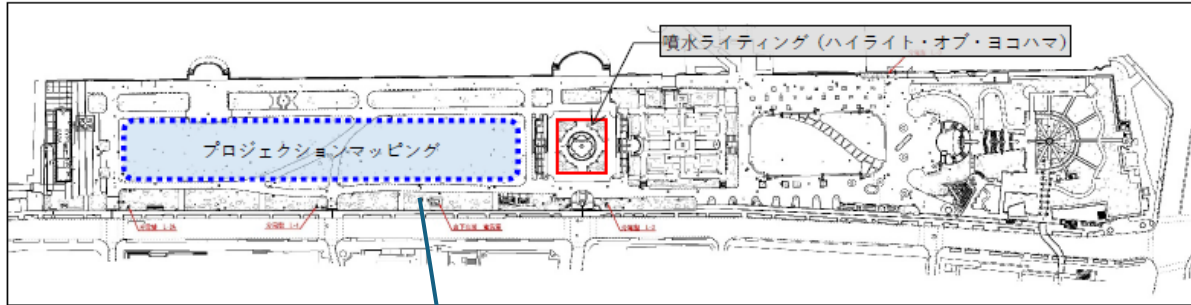
- ① インタラクティブなプロジェクトマッピング
- ② ロゴマーク等の投影



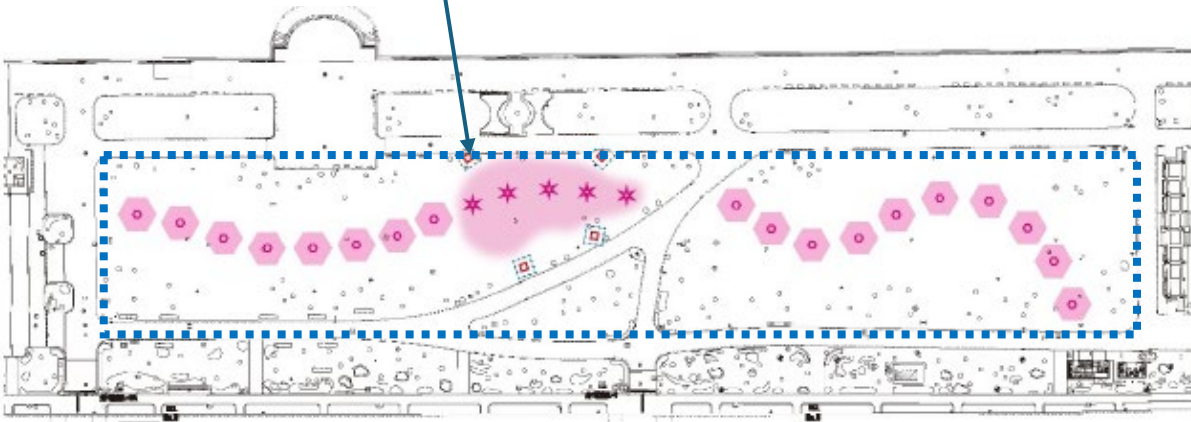
【第39回政策検討部会 令和7年9月1日】

(1) 創造的イルミネーション事業〈ヨルノヨ2025〉の実施に係る景観推進地区での景観形成について（審議）

【山下公園のインタラクティブなプロジェクトマッピング】

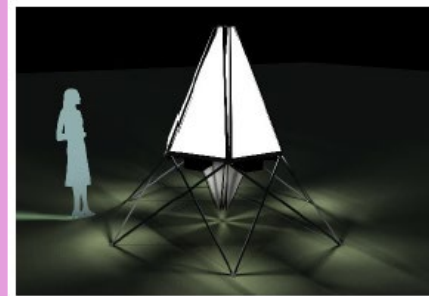


山下公園内配置図

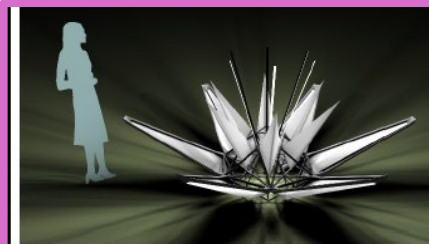


【演出内容】魅力ある夜間景観の創造に寄与

- ・公園内の芝生面に映すプロジェクションマッピング
- ・プロジェクションの光の中に飛び込むような感覚を味わうことが可能
- ・特別演出では街全体で取り組む光と音の演出との一体感を体験



スターツリー姿図



スターフラワー姿図（開時）



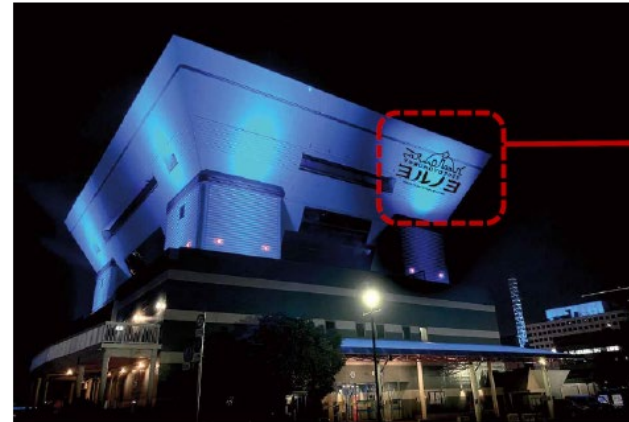
(1) 創造的イルミネーション事業〈ヨルノヨ2025〉の実施に係る景観推進地区での景観形成について（審議）

【大さん橋国際客船ターミナル屋上広場】

- ・街全体が光と音楽で躍動するショーを最も体感できるビューポイント
- ・街を巡る周遊のポイントとなる重要な場所
- ・ハイライト・オブ・ヨコハマとともに、屋上広場の起伏を活かし、来場者向けのダイナミックなプロジェクションマッピングを実施



〈大さん橋国際客船ターミナルのイメージパース〉



【イメージパース（大さん橋ふ頭ビル）】

審議事項②

- ・ ヨルノヨのロゴマークを投影するもの
- ・ 点灯のみで点滅や回転などの動きはないもの
- ・ 横8m×縦5m



【イメージパース（大さん橋国際客船ターミナル入口）】



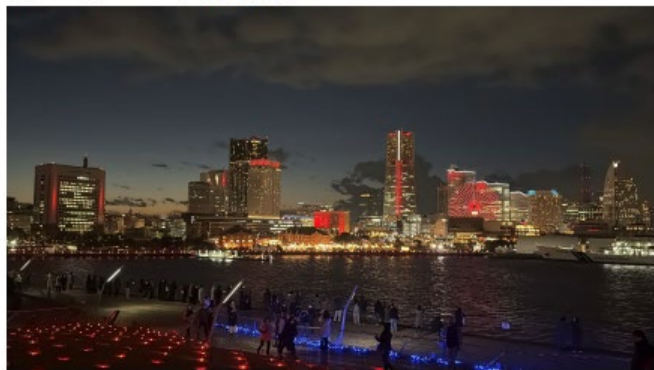
審議事項③（資料2-3参照）

- ・ ヨルノヨのロゴマークとクジラの形を投影するもの
- ・ 加えて会場の方向を示したり、滞留を避けるような喚起情報を掲出し、会場までのスムーズな来場を誘導する。

(2) 創造的イルミネーション事業〈ヨルノヨ2024〉における実験的な演出の結果報告と今年度実施について（報告）

＜ヨルノヨ2024 ハイライトオブヨコハマ＞

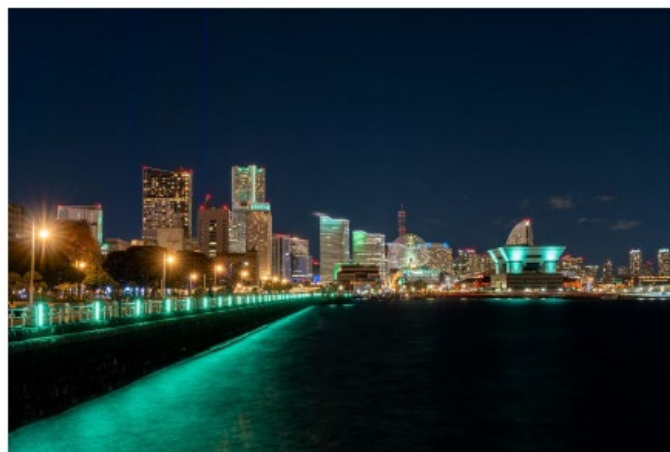
① 日本コカ・コーラ株式会社



② GREEN×EXPO 2027



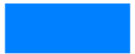
③ YOKOHAMA GO GREEN



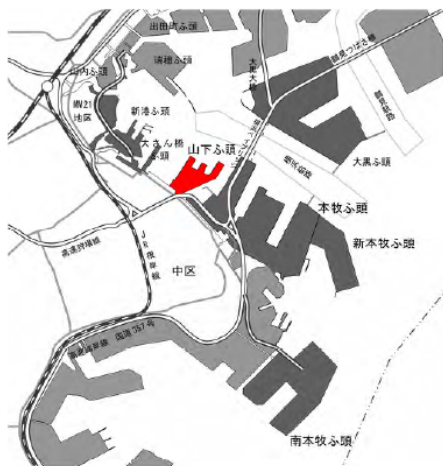
④ TICAD9（第9回アフリカ開発会議）



＜ヨルノヨ2025 ハイライトオブヨコハマ実施案＞

		表現する内容	実行委員会の 連携先
①	青から赤 	「アバター：ファイヤー・アンド・アッシュのテーマカラー」 〈ヨルノヨ 2025〉のトップスポンサーであり、地域のイルミネーションとの連携演出など、一体的に実施することによる <u>回遊施策を展開</u> 。	ディズニー社 （調整中）
②	青 	「GREEN×EXPO 2027 のイメージカラー」 SDGs の達成や GX の実現に貢献する博覧会であり、本市の重点施策のひとつ。	横浜市

(3) 山下ふ頭再開発答申を踏まえた基本的な方向性について（報告）



所在地	中区山下町277-1 ほか	敷地面積	約47ha
用途地域	商業地域	容積率	400%
建蔽率	80%	高度地区	第7種高度地区 (最高限31m)
防火地域	準防火地域	臨港地区	横浜港臨港地区 (分区：商港区)
その他	都市再生緊急整備地域・特定都市再生緊急整備地域		

(1) 答申について

- ・令和5年8月から、学識者と地域関係団体で構成された横浜市山下ふ頭再開発検討委員会において、まちづくりの方向性や導入機能等について議論されました。
- ・令和6年12月に、「世界に誇れる、魅せる『緑と海辺』空間の創造」をはじめとする「目指すべき姿」と、実現に向けた土台となる「基盤・空間の考え方」の2つを柱とする答申を取りまとめました。

(2) 基本的な方向性について

- ・答申を踏まえ、本市が描く新たなまちの姿をイメージできるように、骨格となる山下ふ頭の将来像として再開発のテーマと取組の考え方を「基本的な方向性」として、取りまとめました。



(3) 山下ふ頭再開発答申を踏まえた基本的な方向性について（報告）

再開発のテーマと取組の考え方（概要）

テーマⅠ 世界に誇れる、魅せる「緑と海辺」空間



取組の考え方1

多くの人々の関心を惹く緑・海辺空間

- ① 周辺地域と連なる水際線と、都市を包み込む魅力的な緑・海辺空間の創出
- ② 都市と自然が共生した、ここにしかない緑・海辺



取組の考え方2

新たな発見や感動をもたらす緑・海辺空間

- ① 体験・体感による行動変容や新たな交流を生む緑・海辺の創出
- ② ウォーターフロントの空間が織りなす非日常

テーマⅡ 持続可能なまちを支える明日へのイノベーション



取組の考え方1

多様な人材・技術の交流による絶え間ないイノベーションの創出

- ① 緑・海辺の環境を生かしたイノベーション拠点の創出
- ② 体験・体感によるイノベーションの循環と発展
- ③ 人材育成によるイノベーション創出のための土壌形成



取組の考え方2

時代の最先端の技術が実装される世界を代表するグリーン社会の実現

- ① 先進的なグリーン技術が広がる、常に新しいまち
- ② 付加価値を生み出す循環型のまちづくり
- ③ 世界の脱炭素化を先導する効果的なエネルギー利用
- ④ 都市に寄り添う自然の再興

市民が結ぶ新たなまちの環



豊かな緑・海辺空間における環境保全や交流促進の取組

イノベーションにより生まれた最先端技術の体験・体感

オープンスペースの活用等による賑わいづくりと地域活性化

国内外からの来街者を迎え、もてなす温もりある環境づくり



テーマⅢ 活気に満ちあふれ、周辺へと広がる新たな賑わい



取組の考え方1

旅の目的地となる賑わい拠点の形成

- ① 国内外の多くの人々を惹きつけるコンテンツの導入
- ② 多様な手段による誘客促進



取組の考え方2

市域全体の活性化につながるまちづくり

- ① 市域に広がる魅力と相乗効果を生み出す賑わいの創出
- ② 地域経済の活性化と雇用創出

注）写真はイメージです

「緑・海辺のまち」を支えるインフラ構築と空間整備



取組の考え方1

まちをつなぎ、賑わいが広がる交通機能の強化

- ① 新たな交通結節点の形成による広域アクセス機能の確保
- ② 埠頭周辺の交通ネットワーク構築による利便性・回遊性の向上
- ③ 埠頭内の円滑な移動につながる環境整備



取組の考え方2

誰もが安心して滞在できる、災害に強いまちづくり

- ① 市域全体の防災力向上につながる拠点形成
- ② 有事に備える空間づくりと体制の構築



取組の考え方3

横浜の新たな象徴となる魅力的な景観デザイン

- ① 世界に魅せる、時代を超えて愛される都市景観の創出
- ② 都心臨海部全体との調和と、個性の発揮のバランス
- ③ 山下ふ頭ならではの景観体験の創造

注）写真・イラストはイメージです

(3) 山下ふ頭再開発答申を踏まえた基本的な方向性について（報告）

(1) 世界に魅せる、時代を超えて愛される都市景観の創出

- ・多くの人を惹きつけるとともに、市民が誇りに思い、時代を超えて長く愛され続ける景観を形成する
- ・新たに生み出される緑や海辺の空間、最先端の技術を取り入れた建築物などにより、これからの横浜を代表し、世界に誇る都市景観を形成する

(2) 都心臨海部全体との調和と、個性の発揮のバランス

- ・周辺地区の織り成す景観と調和しつつ、各地区の個性と対比的に引き立て合うことで、都心臨海部の景観的価値を更に高める。
- ・山下公園や大さん橋など陸側だけでなく、横浜の新たな玄関口として、船上やベイブリッジなど海側からの見え方にも留意し、魅力的なランドスケープや建築物により、都心臨海部における新たな群景を創造する

(3) 山下ふ頭ならではの景観体験の創造

- ・街としての一体感を持ちつつも、様々な空間や営みを演出し、多様な景観を創造する
- ・船が行き交う港の様子や洗練された街並みなど、今ある横浜の景観を楽しむ新たな視点場を作り、体験の質を高める



時代を超えて愛される
横浜の夜間景観



街並みの調和と個性の対比



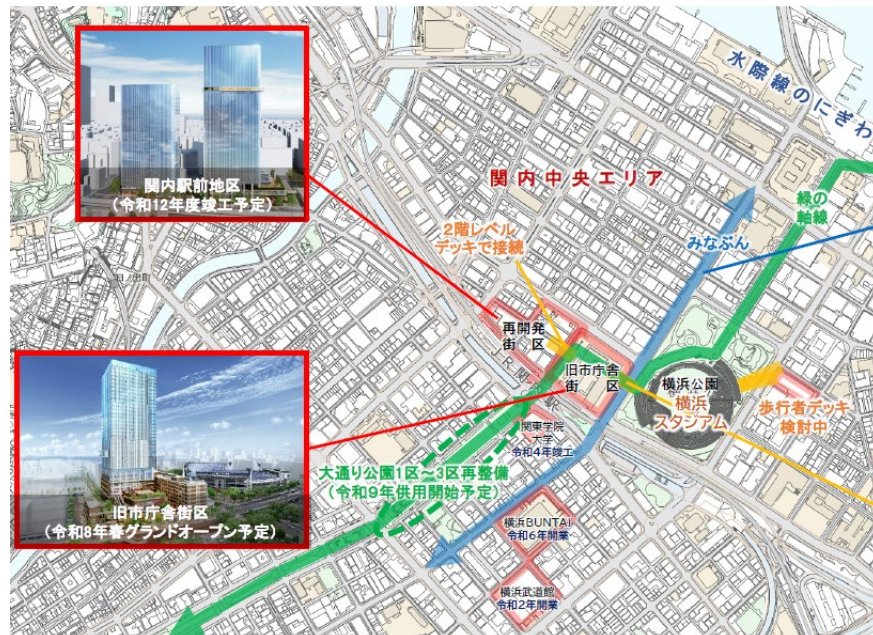
ベイブリッジからの
見え方・群景



山下ふ頭における
新たな視点場

(1) 旧市庁舎街区活用事業における駅前広場とデジタルサイネージの活用について（審議）

1. 関内駅周辺地区の位置付け ①「国際的な産学連携」と「観光・集客」、②賑わいと活性化の核、回遊性の向上、③玄関口としての風格



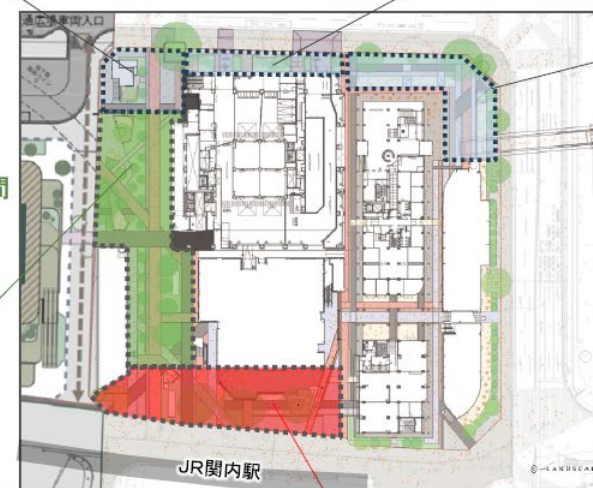
●ビクターフロント周り 観光案内・シェアモビリティポート等



●尾上町通り沿い 歩行者の休憩空間



●くすのきモール 緑陰空間に点在する居心地の良い滞留空間



●海側ゲート広場 ホテルロビーとの一体的な空間 関内の街に人の回遊を生み出す

●駅前広場 駅前にふさわしい多様なアクティビティ を生み出す賑わいの空間



(1) 旧市庁舎街区活用事業における駅前広場とデジタルサイネージの活用について（審議）

5. 駅前広場の空間活用の考え方

● 駅前広場の役割について

⇒ 上位計画等を踏まえ再整理

- 駅前広場は、関内駅南口の目の前に位置しているため、**関内・関外エリアにおける玄関口**として、関内・関外地区の魅力を印象付ける空間を目指します。

【駅前広場の役割】

- 関内地区の玄関口としての風格や、活気と賑わいのある景観（**景観形成**）

⇒ 建築物：旧市庁舎と調和した形態意匠

⇒ 外構：シンボルツリー（既存くすのき）を中心とした空間

- 関内地区の玄関口として動線の基点となる空間を形成（**回遊性**）

⇒ 駅前広場を基点に動線を確保（広場2、歩行者専用通路、その他の動線）

- 新たなまちを印象付ける駅前にふさわしい賑わいを創出（**賑わい**）

⇒ 滞留空間やイベント利用等のための設備の整備

⇒ 賑わいの性質はグラデーションで変化するもの

● デジタルサイネージの役割について

⇒ 駅前広場の役割に合わせて再整理

- デジタルサイネージは、**駅前広場の機能を高めることを目的とし、広場の活用状況に合わせて掲出するコンテンツを連動させていきます。**

【デジタルサイネージの役割】

- デジタルアートなどの映像表現による玄関口としての**景観形成**

- 周辺地域や施設などの情報発信による**回遊性**の向上

- LIVE映像や演出動画・静止画などのイベント演出による**賑わい**の増幅

● 「ハレ」と「ケ」のバランスについて

⇒ 賑わいの性質はグラデーション的に変化するもの

- 本事業では施設内に業務・商業機能が入るため、街区内にある一定程度の賑わいが常時存在することになります。地域や周辺施設、街区内施設などの状況に合わせて、駅前広場の**賑わいの性質はグラデーション的に変化する**ものであり、広場の活用方法にはバリエーションがあると考えています。

【賑わいの性質のグラデーション(例)】

日常 ⇄ 特別
規模が小さい ⇄ 規模が大きい
地域性 ⇄ 商業性
憩い ⇄ 活動

(1) 旧市庁舎街区活用事業における駅前広場とデジタルサイネージの活用について（審議）

5. 駅前広場の空間活用の考え方

● デジタルサイネージのコンテンツについて

⇒駅前広場の機能を高めるコンテンツを役割別に整理

【コンテンツの種類(例)】

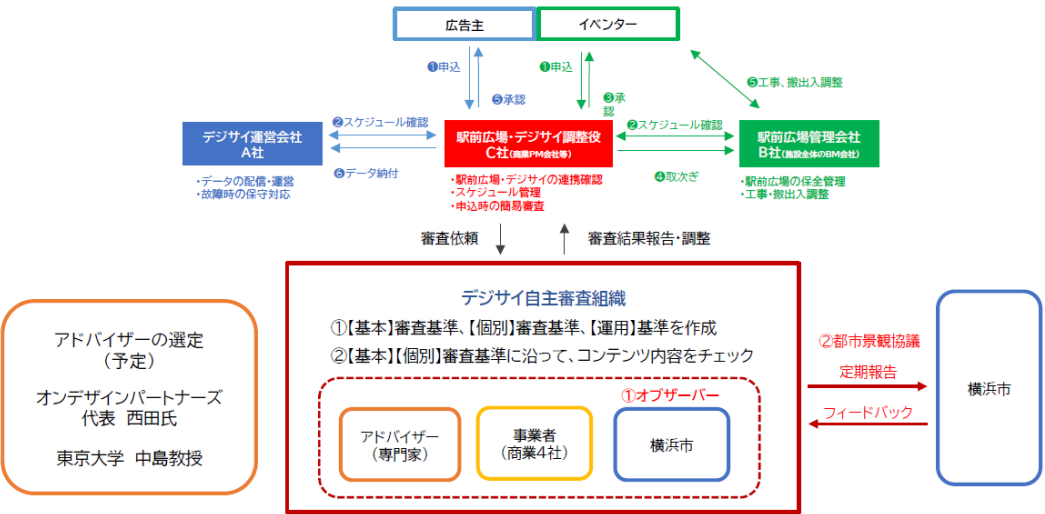
- ① 玄関口としての景観形成(ブランディング)
・デジタルアートなどの映像表現(制作動画)
- ② 回遊性の向上
・周辺地域や施設の情報
- ③ 賑わいの増幅
・LIVE映像
・イベント演出
- ④ 駅前広場とデジタルサイネージの運営費の確保
・企業広告



● デジタルサイネージの運用や審査の体制について

⇒デジタルサイネージの自主審査における横浜市の役割を明確化

【事業者の体制と横浜市の役割】



- ① 自主審査組織のオブザーバー:コンテンツの審査(都心再生課)
- ② 都市景観協議:運用や審査の基準等の確認(都市デザイン室、景観調整課、都心再生課)

(2) (仮称) 水際線まちづくりコンセプトプラン (案) について (審議)



① 出かけたくなる



Photo: (一社) 横浜みなとみらい21

- 水際線の魅力向上を行政が先導的に推進し、出かけたくなる環境づくりを進めていきます。
- 訪れた人々が横浜でしかできない体験を楽しみ、誰かに伝えたいような水際線にしていきます。

② 横浜のファンになる



©CENTRAL MUSIC & ENTERTAINMENT FESTIVAL 2023

- 独自の魅力をさらに磨き、来街者にまた訪れたいと感じてもらえるホスピタリティあふれる水際線にしていきます。
- 横浜に住みたい、横浜で働きたい・学びたいという人々を増やしていきます。

③ 世界が注目する



Photo: (一社) 横浜みなとみらい21

- 一目見て「YOKOHAMA」と分かる圧倒的な水際線の景観をブランディングし、発信していきます。
- 世界を魅了し、市民や企業が誇れる水際線にしていきます。

『世界に誇れる水際線』を実現していきます

(5) (仮称) 水際線まちづくりコンセプトプラン (案) について (審議)

水際線の目指す姿の実現に向けて、「点・線・面」の考え方にに基づき、まちづくりを進めていきます。

「点」の磨き上げ

- ・まちと海の近さや港の風景・夜景、観光スポット、商業・エンタメ施設など、多彩で横浜らしい魅力資源のポテンシャルを最大限に発揮できるようアップグレードします。
- ・新たな魅力・にぎわい施設を整備するなど、横浜ならではの魅力を創出します。



<左> photo : 大野隆介

「線」の創出

- ・磨き上げた魅力資源を結び付けるため、連続した歩行者空間の創出や移動そのものが楽しめる仕掛けづくりにより、水際線エリア全体の魅力を向上させます。



「面」の展開

- ・公共空間の積極的な活用などにより、水際線のにぎわいと主要駅周辺の拠点整備等によるにぎわいを連動させ、水際線からまちへ、まちから水際線への更なる人の流れを生み出し、都心臨海部全体を活性化します。



水際線の5つのエリアの特性を活かしながら魅力を高めるまちづくりを進めていきます。



画像 ©2025 Google、地図データ ©2025